



No 2761

2015-2016年度

会長 中元耕一郎

幹事 上野山栄作

R広報委員長 児島 良宗



担当：松村R広報委員

第2640地区

例会日 毎週木曜日 12:30
 例会場 紀州有田商工会議所6F
 〒649-0304
 有田市箕島33-1
 紀州有田商工会議所2F
 有田ロータリークラブ
 Tel (0737) 82-3128
 Fax (0737) 82-1020

創立 昭和34年6月15日

ホームページ
<http://www.1a.biglobe.ne.jp/aridarc/>
 e-mail aridarc@kdt.biglobe.ne.jp

～ 四つのテスト 言行はこれに照らしてから ～

1. 真実かどうか
2. みんなに公平か
3. 好意と友情を深めるか
4. みんなのためになるかどうか

テ
R
I
マ
マ



世界へのプレゼントになろう
Be a gift to the world

世界へのプレゼントになろう

テ
R
I
マ
マ



奉仕の理想車を走らせよう!!
Let's drive your ideal car of the service!!

本日のプログラム

平成27年12月3日 第2762回

- ・ 会員卓話：上野山栄作君
「有田の将来 地方創生？」
- ・ ソング：「君が代」「奉仕の理想」

次回のお知らせ

平成27年12月10日 第2763回

- ・ 年次総会
- ・ ソング：「我らの生業」

前回の報告（第2761例会）

開催日 平成27年11月26日(木)

点 鐘 (中元会長)

ゲスト・ビジターの紹介

(橋爪(誠)親睦活動委員長)

ゲスト:野田 ちよみ 様

(有田市通所支援施設 さくらんぼ 園長)

ビジター:竹中 喜廣 君(和歌山RC)

会長の時間 (中元会長)

今年の7月に実施されたアンケート調査で、出席に関しての興味深い結果が見られました。設問は「あなたはロータリーの例会出席100%に意味を感じますか?」という内容です。その結果では、入会11年以上の会員になると、12人中11人、実に92%の人がYESと回答し、100%例会出席に意味を感じている人がほとんどでした。ところが、入会10年以内の会員をみると、7人中4人、57%の人しかYESと答えていませんでした。43%の人がその意味を感じていないようです。



ジェネレーションギャップとも言える今回の調査結果は、いったい何を意味しているのでしょうか。はたして、入会10年以内の会員43%が回答したように「ロータリーの例会出席100%」は本当に意味のないものなのでしょうか。

まず、私の意見を述べたいと思います。私は、ロータリーの100%例会出席は十分意味があるものと考えます。何故なら、例会出席はロータリーの存在意義の大部分を

占めるからです。ロータリーの例会では、自分の限られた職業生活の中では得られない、多くの違った業種の優れた指導者達と知り合いになることができます。そしてそこからインスピレーションを受けて、自分が成長すると共に、例会で学んだものを自分の業界に持ち帰り、更に業界の人々にもこれを広めるために例会が存在します。

逆に、自分が例会に出席することによって、ほかのロータリアン達に今度は自分自身を与えなければなりません。つまり、例会は奉仕の情報交換会なのです。会員同士がお互いに師となり徒となって奉仕の心を高め合い、それを自分の業界にまで広めるという、ロータリーの基本を実践する場が例会なのです。

奉仕の冒険(Adventure in Service)には次のように書かれています。「例会出席によって、あなたはRotaryの親交、Clubの活動、ほかのMemberとの交友的接触と言う利益を受けるだけでなく、会員の方々も又あなたの職業から利益を受けることになる。もし欠席したとすればRotaryの本質であるべき友好、個人的接触、および職業代表をあなた自身とほかの会員から奪い去ることになる。」

また、和歌山ロータリークラブの元会長の小中義美さんは『これがロータリー』で、RotaryのBadgeには24の歯車がついている。この歯車は他の歯車とかみ合って動力を伝えることができる。わずか1つの歯を失っても歯車の効率は損なわれ、動かなくなるかも知れない。このように例会の欠席は自分のみが損をするだけではなく、他の会員が受ける筈の利益をも奪うことになる。」と述べています。

入会10年以内の会員には働き盛りの会員が多く、特に多忙な職業生活を送られている方が多いと思われます。また、日本国内だけではなく海外にも事業展開をし、そのため海外へ出張し頑張っておられる方もいます。また、病気のため出席ができない人もいて、ホームクラブ100%出席は現実的に困難であるのが実際のところと考えます。しかし、ロータリーの基本は例会にあります。例会の場におい

てお互いが勉強しあい奉仕の心を育み、それを自分の職業なり、自分の業界なり、地域社会なりに広めるのがロータリーの考え方なのです。その奉仕の心を育む場である例会が機能しないと、ロータリー自身もその存在意義がなくなってしまうことになりかねません。ですから、会員の中には実際のところ、100%出席は困難な方もいらっしゃるでしょうが、できるだけ、それを目指して頑張ってくださいと思います。

幹事報告 (上野山(栄)幹事)

- 2640地区辻ガバナーより、ガバナー公式訪問の御礼が届く。
- 国際ロータリー日本事務局より、ロータリーレートのお知らせが届く。2015年12月のロータリーレートは1ドル=120円
- 例会変更 (後方掲示)

委員会報告

*親睦活動委員会(橋爪(誠)委員長)
 新年例会についての委員会会議を開催致します。委員の皆様、ご出席よろしくお願いいたします。

出席報告 (脇村例会運営委員)

本日の会員数28名
 (出席規定免除会員9名)
 出席会員数22名
 (出席規定免除会員8名)
 84. 62%
 11/12 88. 46%
 MU:なし

ニコニコ箱の報告 (中村SAA)

中元君: 有田3クラブガバナー公式訪問・合同例会の御出席ありがとうございます。野田ちよみ様、ようこそ有田ロータリークラブへ。
 上野山(栄)君: 先週の有田3RCガバナー公式訪問例会にご参加頂いた皆様、長時間ありがとうございました。さくらんぼ野田園長、本日卓話よろしくお願いいたします。和歌山RC竹中様、ようこそお越しくださいました。
 松村君: 野田ちよみ先生、卓話楽しみにしています。竹中様、有田RCへようこそお越し下さいました。
 橋本君: 野田さん、本日の卓話よろしくお願いいたします。
 上野山(捷)君: 野田ちよみ様 本日の卓話ありがとうございます。健康に留意して頑張ってください。
 橋爪(誠)君: 先週の合同例会、ガバナーアドレス、懇親会、勉強になりました。ありがとうございます。野田園長、本日の卓話ありがとうございます。竹中様ようこそ

有田RCへ。
 石垣君: 野田様、お忙しい中、卓話御苦労様です。
 酒井君: 野田様、本日は卓話どうぞよろしくお願いいたします。
 成川(守)君: 野田さま、ようこそ有田RCへ。
 嶋田(ひ)君: 孫が満1才になりました。今日の卓話楽しみです。
 橋爪(正)君: 野田先生、卓話よろしくお願いいたします。
 中村君: 脇村さん、先週はお世話になりました。野田さん、ようこそ有田RCへ。卓話楽しみにしていました。

卓話

「子どもと共に歩むさくらんぼ」

有田市通所支援事業所 さくらんぼ

園長
野田 ちよみ 様



どうして有田市に「さくらんぼ」が出来たのか? ダウン症や発達障害、発達がゆっくりな子ども達がありました。そしてその保護者の方々との出会いから始まりました。子育ては目の前にいる子どもからいろんな事を教わりながら親も育っていくものですが、それがなかなか難しい子ども達があります。例えば、赤ちゃんに「いないないばあ」をしてみると笑ってくれて、そうするとお母さんはいやこんな事したら笑うんや、これはええなあ又やってみよう! でも・・・「いないないばあ」をしても笑ってくれない子どももいます。名前を呼んでもこっちを向いてくれない子どももいます。どうしたら良いの? どう関われば良いの? とお母さん達は悩んでしまいます。このお母さん達もそうでした。

この時の子ども達もう22才、20才、18才と大きくなりました。ある子は作業所に、ある子は地域の高校を出て地域のお店で働いています。この地域で働いている子と出会ったのは2才の時でした。お母さんから話を聞くとこの子は朝起きるとすぐに外に出て行こうとするのだそうです。これを止めると泣く、暴れる、母は何とか着替えをさせ靴をはかせると、そのまま外に出て行ってしまふ、子どもの後ろをひたすらついて行くお母さん、1時間2時間平気で歩き続けるわが子、お腹がすいて来ると泣くので抱っこしてお家に帰ります。ところが食べると又外へ、歩き続ける子ども、そのうしろをついて行く母、そんな毎日が続いていた。どうすれば近所の子ども達に普通の生活が出来るのか? なぜ? わが子が・・・この子ども達が楽しく通える所、この子ども達が主人公になれる場所が欲しい

いという思いが形になって出来たのが「さくらんぼ」です。
17年が経ち現在のさくらんぼは運営母体が有田市からNPO法人さくらんぼになり、場所は有田市市民球場の会議室から15年前に宮原にある福祉館なごみに移り、子ども達はそこで元気に療育を受けています。

有田市通所支援事業所 さくらんぼは毎日通園する子どもが23名います。9時から15時30分までの保育です。親と別れ、給食、昼寝、散歩、設定保育内容は普通の保育です。ただ少人数で生活はゆるやかに進んでいます。一人一人の発達段階を知り、日々変わって行く子ども達の様子を話し合いその中で集団で楽しめる保育を目指しています。子ども達は毎日散歩をします。これがとても楽しい散歩です。散歩は散って歩くと書きますが、その通りの散歩です、「かたつむりあったよ」と言う保育士の声に「どどここ？」と集まって来る子ども達、「カエル見つけた、つかまえろ」と走りだす子どもと保育士。おいおい大丈夫？保育士遊び過ぎて子ども達見てるのかな？と思われそうですが、ここには保育士の中で話し合われている細かなルールと配慮があるから大丈夫です。ここでも目指すのは、楽しい散歩です。「かべピタ」それ何？「車が来たよ、危ないからはしっこに寄って」なんて言っても子ども達の耳には入りません。でも「車来たよ、かべピタ」この言葉と同時に保育士がかべにピタとつく、子ども達も真似をします。集中する事が難しい子ども達、難しい言葉を理解する事が難しい子ども達も「ピタ」はおもしろい響きであり、解りやすい言葉なのです、ここに動作をつける事で子ども達は学んでいきます。子ども達自信が経験し、経験を重ね、教え込むのではなく子ども達自身が力を伸ばしていくのです。私達保育士はそのお手伝いをしています。

一般的な子どもであれば、遊びは自分で作り出していきますが、さくらんぼの子ども達は、なかなか遊びを作りだす事が難しいので、保育士が子どもの発達に合った仕掛けを作ります。友達と関わる事が難しい子ども達ですが保育士が関わりながら楽しく遊ぶ事でその中に入って来る事ができる様になります。

さくらんぼには学童もあります。障害児学童です。名称は「さくらんぼ学童」と言います。小学校1年生～中学3年生が対象児です。定員は10名で毎日8名～10名の子ども達が放課後をほっこりと楽しめる場所として利用しています。

もう一つの教室は親子教室です。名称が「いちご教室」と言います。週3日開所しています。この教室は有田市が必要だと思って下さり、有田市からの委託で始まりました。来年2月からはさくらんぼの事業として運営されます。有田市にさくらんぼが必要である事を日頃から言っている、有田市長の思いだと感謝しています。

さくらんぼはまだ多くの課題を抱えています。有田市と福祉館なごみの配慮によって今毎日の療育がなされていますが、有田市にさくらんぼ園を建てたい、滑り台やブランコのある園庭が欲しい、これからのさくらんぼをになってくれる保育士を育てて行きたい。

障害は治らないと言われました、でも適切な関わりによって障害は軽減されると教わりました。「私達さくらんぼはその役割を担って行きたい」と思っています。その為に

は周りにいるみなさんとの連携を大切に、日々素敵な子ども達と楽しんで行きたいと思っています。私にとってこの子ども達と出会えた事が宝物です。

閉会・点鐘 (中元会長)

日程	12月の例会プログラム
12/3 (木)	会員卓話 上野山栄作 君 「有田の将来 地域創生？」
12/10 (木)	年次総会 (例会終了後14:00～) 「初島中学校生徒と ラオス海外留学生との 交流事業」 (於) 初島中学校)
12/17 (木)	外部卓話 田中政彦氏 (有田市教育長) 「最近つくづく思うこと」
12/24 (木)	前期活動報告の発表 各委員長
12/31 (木)	休 会

～過ぎし時に敬意を表わして～
ポールハリス語録

たとえ、よりよいことのためでも退ける
ことができない、といったような聖域が
ロータリーに一つもないのは幸いです。
現代は、移り変わる世界の実験的時代で
す。価値があり進歩するものはすべて試
行錯誤の積み重ねなのです。」
(旅行記、第3巻)

It is well that there is nothing in Rotary
so scared that it cannot be set aside in
favor of things better. This is an experi-
mental age in a changing world, and all
things which are worthwhile and pro-
gressive are the cumulative effects of
preceding successes and failures.

(関場慶博RI第2830地区PDG提供資料より)